



## Tonyamachi SDGs Report 2021

組合では2021年度を「SDGs元年」と位置づけ、  
様々な取り組みに着手していきます。

その第一段階として  
「SDGsを認知してもらう」ことから始めます。

### Our Approach 組合の取り組み

#### ▶ SDGsをキーに分類 組合事業一覧表の見える化

組合で実施している各種事業についてSDGsをキーに分類し、  
わかりやすく見える化しました。見える化したものは印刷物として  
配付するほか、ホームページにも掲載し、啓蒙活動に使用します。

#### ▶ SDGsバッジの無料配付・販売

SDGsロゴマークのバッジを全組合員に無料配付したほか、  
バッジの販売先が周辺に少ないことから、気軽に購入できるよう  
問屋町交流ストアでの販売を開始しました。

#### ▶ SDGsのPR看板を設置

認知度を高めるには常に見てもらおう環境を整えることも有効な  
ことから、第二問屋町共同倉庫壁面にSDGsのPR看板を設置  
しました。



### Our Approach to the Members 組合員に対する取り組み

#### ▶ SDGsを意識した情報発信

常にSDGsを意識してもらえるよう、組合から発信する様々な  
案内書等に関連する17のゴールのアイコンを掲示しています。

#### ▶ SDGsに関する情報発信

SDGsに関する基礎的な情報やSDGs実践企業の事例等を  
適時発信していきます。また、組合員昼食会や青森問屋町経営  
同友会、問屋町支店長・所長連絡会等でSDGsに関連する講  
話も実施していきます。

#### ▶ 「問屋町SDGs宣言」制度の創設

SDGsに対する機運を向上させるため「問屋町SDGs宣言」制  
度を創設しました。宣言するには企業としてSDGsのどれにどう  
取り組むのかを決めてもらうだけと  
し、まずは取り組みのスタートを促  
しています。宣言した企業には、組  
合が「宣言書」を作成して進呈する  
ほか、組合ホームページへの掲載や  
必要に応じて取り組みのサポートも  
行っています。



# Tonyamachi SDGs Report 2021

## What are the SDGs?

最近よく“SDGs”という言葉を目にしませんか？

SDGs (Sustainable Development Goals) とは「持続可能な  
開発目標」という意味のことで、2015年に国連総会で全会一致  
で採択された2030年までに目指すべき17の国際目標です。

「持続可能な」というのは、「今だけでなく、ずっと続けていくこと  
ができる」ということを指し、未来に向けて環境や資源をこわさず  
に、地球上すべての人が貧困等で苦しめない世界をつくるための  
目指すべき目標ということでSDGsは制定されました。

協同組合青森総合卸センターはSDGsの理念に賛同し、問屋町  
一丸となってSDGsを推進しています。



協同組合青森総合卸センターは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

協同組合 青森総合卸センター Business Park Tonyamachi  
〒030-0131 青森県青森市問屋町2丁目17番3号  
TEL / 017-738-4711 FAX / 017-738-7323 MAIL / info@tonyamachi.com



SDGsと問屋町の3つの価値  
Tonyamachi SDGs Report 2021



# Tonyamachi SDGs Report 2021

## SDGsは、 組合が取り組む3つの価値創出事業と すでに多くの接点あり

### Economic Value Creation 経済的価値創出事業

経済的価値創出事業とは、組合経営を土台となって支える物流・駐車場・共同施設事業等の収益(経済)事業で、インフラ整備などハード事業が主体となっており、SDGs17のゴールの「成長・雇用」や「イノベーション」、「都市」と深い関わりを持っています。

### 1. 団地造成

1960年代、市街地に散在する中小卸売業が直面していた店舗や倉庫の狭隘化や駐車場難等を解消するため、国が郊外への集団移転や中小卸売業の事業の高度化や共同化を後押し。当組合でも国の支援を受け、土地の造成、道路や防犯灯、街路樹、汚水処理施設等のインフラ整備、組合員施設や共同施設の建築などに取り組み、現在は団地再整備を積極的に推進しています。



### 2. 合同企業説明会

組合員企業の人手不足、人材確保を支援するため合同企業説明会を開催し、学生との接点を増やし組合員企業の認知度や採用力向上に取り組んでいます。若者の地元定着を図るべく青森県内の大学を対象とし、近隣にある組合員企業に興味を持っていただき、さらに地元で働くメリット等を伝え、青森県内の将来の担い手を1人でも増やせるよう努めています。



### Social Value Creation 社会的価値創出事業

社会的価値創出事業とは、環境事業や交通対策、健康事業等、企業の社会的責任に依っていくために取り組む必要がある非営利性の事業のことです。共同化のメリットが享受しやすい事業でSDGsとの親和性も高く、「成長・雇用」や「都市」だけでなく、「貧困」や「保健」、「生産・消費」、「海洋・陸上資源」等も当てはまります。

### 1. 資源リサイクル回収

卸団地のような企業集団としては青森市初となる紙類リサイクル回収に取り組み、以後、木製パレット、空き缶・ペットボトル、パソコンとリサイクルする品目を増やし、現在では排出するごみの約6割がリサイクルされています。中でもパソコンリサイクル回収は実施効果や社会貢献度が高い事業です。パソコンリサイクル費用の低減、資源リサイクルの推進、分解作業に携わる障がい者雇用創出への支援を目的に開始し、数千台のパソコン機器を回収しリサイクルされました。



### 2. 機械警備・巡回警備・防犯カメラ・青色防犯パトロール

防犯については、初期の頃から組合員施設の共同機械警備や夜間巡回警備を実施しています。2016年には犯罪等が起りにくい環境を整備するため問屋町大通りを中心に防犯カメラを設置しました。2017年には青色回転灯を装備した車両で地域の自主防犯パトロールを行う青色防犯パトロールを開始しました。日々の暮らしの中で、卸団地と組合員が安心・安全に暮らせるよう意識し、住みよい町づくりを心がけています。



### Cultural Value Creation 文化的価値創出事業

文化的価値創出事業とは、景観事業や教育事業、情報事業、コミュニケーション事業が対象で、人々の賑わいと多様な価値を持つ青森ビジネスパークを色づける事業のことです。SDGs17のゴールの「成長・雇用」や「都市」に加えて「教育」、「実施手段」等も当てはまります。

### 1. 花いっぱいプロジェクト

花がある癒し空間を作り出すこのプロジェクトは、街路樹樹や中央分離帯等への芝桜やラベンダー、ハーブ等の植栽に加え、毎年春には花の種無料配布も実施しております。コスト削減のため多年草を使用し、且つ花の種類を使い分けることで、春～秋まで色彩を楽しめる工夫を行っております。2017年度より、問屋町フラワーボックスを随所に設置し、一層花を身近に感じられる空間を演出しています。



### 2. ビジネススクール事業

当スクールは、それまで青森になかった常設の企業教育研修機関で、取り組みとしては全国では2番目、東北では初となります。組織の基礎となる初級から中級レベルをターゲットに、階層別、営業、流通、会計・総務、自己啓発の豊富な研修メニューと計画的なカリキュラムで中小企業の組織の活性化・人材の定着、効率的なスキルアップにより企業力向上のキーとなる人づくりを支援しています。

